

## 自治体作成のやさしい日本語（話し言葉）のガイドラインの留意事項一覧

	類型	話し言葉に関する留意事項	類似の表現による留意事項（自治体作成のガイドライン）	在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン（書き言葉のガイドライン）での類似の記載
1	技術論	短く区切って話す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明は短く簡潔に</li> <li>・長く話さない。短く区切って話す</li> <li>・短く区切って、ゆっくり、はっきりと話す</li> <li>・情報をたくさん盛り込まない。基本は 1文 1情報</li> <li>・短く区切って話す</li> <li>・長く話さない。短く区切って話す</li> </ul>	<p>P8 文をわかりやすくする（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一文は短くする（一文に言いたいことは1つだけ）</li> <li>一文の中に複数の内容が含まれると理解するのが難しくなります。</li> <li>○3つ以上のことを言うときは、箇条書きにする</li> <li>3つ以上のことを言うとき、接続詞で文をつないでいくとわかりにくくなります。</li> </ul>
2	技術論	はっきり話す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短く区切って、ゆっくり、はっきりと話す</li> <li>・ゆっくりはっきり発音する</li> <li>・ゆっくり、はっきりと話す</li> </ul>	<p>P8 文をわかりやすくする（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○回りくどい言い方や不要な繰り返しはしない</li> <li>伝えたいことを明確に、簡単に書きます。</li> </ul>
3	技術論	ゆっくり話す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きく書いてゆっくり話す（文節で区切りながら話す）</li> <li>・ゆっくり話す</li> <li>・短く区切って、ゆっくり、はっきりと話す</li> <li>・ゆっくりはっきり発音する</li> <li>・話すときには、ゆっくりと聞き取りやすい速さを心がけましょう</li> <li>・一言ずつ、ゆっくり話す</li> <li>・ゆっくり、はっきりと話す</li> <li>・ゆっくり話す</li> </ul>	
4	技術論	最後まで言い切る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まで言い切る</li> </ul>	<p>P9 言葉に気を付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○曖昧な表現はできる限り使わない</li> <li>曖昧な時間や数字を表す表現は多用しないようにします。複数の意味を持つ表現は使わないようにします。</li> </ul>
5	技術論	難しい言葉や言い回しを使わない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難しい言葉を使わない</li> <li>・難しい言葉や言い回しを使わない</li> <li>・熟語はなるべく使わない（相手が漢字圏の場合なら、通じることもある）</li> <li>・熟語はなるべく使わない</li> <li>・専門的な言葉（行政用語は）、日常的によく使う言葉に言い換える。ただし、専門的であっても、覚えておいた方がいい言葉は、併せて伝える</li> <li>・専門的な言葉は、日常的に使うやさしい言葉に言い換える</li> <li>・抽象的な表現は避け、具体的に伝える。特に、行動を指示する際は、簡単な言葉で明確に伝える（婉曲表現は用いない）</li> <li>・抽象的な表現は避け、具体的に伝える</li> <li>・業務上の特殊な言葉を、簡易な語彙に言い換える。税金を納めてください。納付してください。→税金を払ってください。</li> <li>・専門的な言葉は、日常的によく使う言葉に言い換える</li> </ul>	<p>P9 言葉に気を付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な言葉を使う（難しい言葉を使わない）</li> <li>対象とする外国人に合わせてわかりやすくします。難しい言葉や専門用語はできる限り使わないよう心がけます。</li> <li>○曖昧な表現はできる限り使わない</li> <li>曖昧な時間や数字を表す表現は多用しないようにします。複数の意味を持つ表現は使わないようにします。</li> </ul> <p>P10 言葉に気を付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○重要な言葉はそのまま使い、&lt;=…&gt;で書き換える</li> <li>言い換えが難しいときは、その言葉を説明するようにします。災害用語や日常生活でよく使う言葉など、知っておくとよい言葉はそのまま使い、言葉の後に説明を加えます。</li> </ul>
6	技術論	敬語・謙譲語は控えめにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尊敬語、謙譲語は使いすぎない</li> <li>・尊敬語、謙譲語はできるだけ避ける</li> <li>・敬意を払いながら、敬語は使わなくていい 例：おかけ下さい→座ってください</li> <li>・敬語は控えめにする</li> </ul>	<p>P10 文をわかりやすくする(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文末は「です」「ます」で統一する</li> <li>尊敬語、謙譲語は使わず、敬語は丁寧語だけにします。</li> </ul>
7	技術論	擬音語・擬態語は使わない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・擬音語、擬態語は使用しない</li> <li>・日本語の「オノマトペ」「擬音語・擬態語」を使わない 例「ざっくりでいいですよ。」「パパッとやっちゃいましょう。」</li> </ul>	
8	技術論	二重否定を使わない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二重の否定表現は使わない。例：ないこともない</li> </ul>	<p>P9 文をわかりやすくする（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二重否定を使わない</li> <li>受身形や使役表現をできる限り使わない</li> <li>「～ないことはない」「～ないわけではない」「～以上／以下は必要ない」などの二重に否定する表現はわかりにくくなります。</li> </ul>
9	技術論	不必要な疑問形は使わない（疑問の形をとった依頼は避け、明確に伝える）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不必要な疑問形は使わない（疑問の形をとった依頼は避け、明確に伝える）</li> </ul>	
10	技術論	カタカナの外来語（和製英語）を使わない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来語カタカナ語は△（あまり使わないよう心がける）</li> <li>・カタカナの外来語（和製英語）を使わない。（通じない）</li> <li>・カタカナ外来語はできるだけ使わない。外国語での意味と異なる、発音が違う、その言葉が存在しない等の場合がある</li> <li>・原語と意味の異なるカタカナ語は、使わない</li> <li>・カタカナ外来語はできるだけ使わない</li> </ul>	<p>P8 外来語に気を付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○外来語（カタカナ語）はできる限り使わない</li> <li>外来語は、「バス」、「ガス」、「テレビ」など、外来語以外に適切な日本語がない場合のみ使用します。外来語には、原語と意味や発音の異なるものが多いため、使うときは注意が必要です。</li> </ul>
11	技術論	必要に応じた声の大きさと話す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じた声の大きさ</li> </ul>	

12	技術論	資料や図を活用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい日本語と一緒に使うと便利な指さし単語集を掲載</li> <li>・資料や図を活用する</li> <li>・カード、書類、カレンダー、地図などを示し、具体的に伝える</li> <li>・身振り手振りや実物を示す</li> </ul>	P7 情報を整理する ○イラスト、写真、図や記号を使ってわかりやすくする イラストや図解を使うことで、視覚的にわかりやすくします。
13	技術論	キーワードとなる単語、略図などを紙に書いて渡す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事なことはメモに書いて渡す</li> <li>・その数字は必要ですか？（必要な数字ならメモにする）</li> <li>・キーワードとなる単語などを紙に書いて渡す</li> <li>・場所を伝えるときは略図を書いたり窓口の番号で伝える</li> </ul>	
14	心構え	相手を思いやり、小さな子どもに話さない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最も大切なことは相手を思いやる態度</li> <li>・相手に応じた適切な使い分け（小さな子どものような扱いをされると不愉快に感じることもある）</li> <li>・小さな子どもに話さない</li> </ul>	
15	心構え	会話の中で相手が分かっているか確認し、分かっていたら別の言葉で言い換える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こまめに確認（会話中、「わかりますか?」「いいですか?」「質問はありますか?」などの声かけをする</li> <li>・会話の中で相手が分かっているか確認</li> <li>・分かっていないと感じたら、別の言葉で言い換える</li> <li>・相手の表情や反応を見ながら話す</li> <li>・相手に伝わっているか確認することが重要</li> <li>・分かってなかったら、別の配慮や工夫を考えてもう一度伝える</li> <li>・理解しているかどうか確認する（繰り返し）</li> <li>・積極的に言葉を言い換える</li> <li>・相手が理解しているか、確認しながら話す</li> <li>・理解度の確認（分かっているかどうかを確認）</li> </ul>	
16	心構え	受け手のレベルに合わせて会話する	<p>対象者は、日本語で買い物ができる程度のレベル（N4・・・日本語能力試験4級）と考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の日本語力に応じて言葉を選ぶ</li> <li>・受け手のレベルに合わせて会話する</li> </ul>	P5 （1）このガイドラインの目的（吹き出し部分） やさしい日本語を使う際には、対象にする外国人の言語背景や日本語能力などに応じて、柔軟に調節する必要があります。そのため、このガイドラインではあえて厳密な基準は示していません。
17	心構え	会話の中で相手が分かっているか確認し、分かっていたら別の言葉で言い換える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こまめに確認（会話中、「わかりますか?」「いいですか?」「質問はありますか?」などの声かけをする</li> <li>・会話の中で相手が分かっているか確認</li> <li>・分かっていないと感じたら、別の言葉で言い換える</li> <li>・相手の表情や反応を見ながら話す</li> <li>・相手に伝わっているか確認することが重要</li> <li>・分かってなかったら、別の配慮や工夫を考えてもう一度伝える</li> <li>・理解しているかどうか確認する（繰り返し）</li> <li>・積極的に言葉を言い換える</li> <li>・相手が理解しているか、確認しながら話す</li> <li>・理解度の確認（分かっているかどうかを確認）</li> </ul>	
18	心構え	受け手のレベルに合わせて会話する	<p>対象者は、日本語で買い物ができる程度のレベル（N4・・・日本語能力試験4級）と考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の日本語力に応じて言葉を選ぶ</li> <li>・受け手のレベルに合わせて会話する</li> </ul>	P5 （1）このガイドラインの目的（吹き出し部分） やさしい日本語を使う際には、対象にする外国人の言語背景や日本語能力などに応じて、柔軟に調節する必要があります。そのため、このガイドラインではあえて厳密な基準は示していません。
19	技術論/心構え	アイコンタクトやあいづちを打つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイコンタクトや笑顔を忘れずに</li> <li>・あいづちをたくさん打つ、相手の話を理解したことをはっきりと示す</li> </ul>	